

令和7年度 法人本部 事業計画

◎基本方針

新型コロナウイルス感染症が、令和2年に日本に上陸が確認されて丸5年、感染対策の徹底による弊害で集団免疫力が低下し、最近ではマスクをされる方も減ってきたからか、従来あるウィルスの感染症までコロナ前以上に感染者数が増えたものもあり、事業運営に影響が出ないようウィルス対策はよりいっそうの注意が必要になっている。

運動体においては、全国的な傾向ではあるが、学齢期の会員が激減している。夫婦で仕事をしている家庭が増え、学校 PTA への参加も減って PTA を解散する学校も増えてきている上、福祉もある程度充実したためか、親の会に参加してまで活動しようという方も少なくなっている。

しかし生活スタイルがどんどん変わっていても、課題が全くなくなったわけではなく、子どもへの支援はもちろんのこと、家族支援も重要になってきていると感じている。昨年度より模様替えし、全世代の会員を対象にリニューアルした「育成会ほっとピア」にも学齢期の方が、少し増えてきた。若い年代の方の悩みは時代と共に変わってきたところもあるが、昔といっこうに変わらない悩みもあり、年代を超えて共感できる部分もまだまだある。今後も、年齢に関係なく皆さんが参加しやすいような活動を増やしていきたい。

知的障害を知ってもらうための活動である啓発キャラバン隊「くまくま隊」や、本人の卒業後の未来を伝える出前講座は、毎年順調に申し込みがあるが、昨年度の計画に盛り込んでいた企業への働きかけがまだできていない。今年度はもっと積極的に PR ができたらと思っている。

つなごう会にも毎年、若い仲間が1人、2人と入ってきているが、長く活動している人たちとの年齢のギャップを感じて、入りにくいという意見も聞こえてくるようになってきた。年齢を分けて、あるいは共に楽しめる活動はどんなものがあるか本人たちの意見も取り入れた活動も考えていきたい。

事業体においては、コロナ禍の影響は薄れ、利用者数も徐々に元に戻りつつあり、各事業所もそれぞれ事業内容の見直しや、加算がとれる体制づくり、新規利用者の獲得などに改善点を見つけて努力した結果、回復の兆しが見えてきた。

今年度は、各事業所の職員が一つになって、利用者の皆さんに選ばれる事業所になるようさらに努力を重ねていきたい。

1. 中長期プランを基にした実現に向けた取り組み

- (1) SNS を活用した育成会活動発信の拡大（再検討）
- (2) 次世代を担う職員の育成のための研修や人事交流の実施（継続）
- (3) 障がい児やその家族を支える事業の検討（継続）

2. 育成会活動の課題と活性化に向けた具体的方策の実行

- (1) 若い世代の会員獲得に向けた PR 活動の強化の検討
 - ① 学齢期世代の親御さん向け
 - ・「育成会ほっとピア」で学校卒業後の将来の見える話し合いを会員同士で行う座談会の実施（継続）
 - ・ X や Facebook、LINE などの SNS を使った個別相談会の実施（継続）
 - ② 高齢親子向け
 - ・昨年度に引き続き、親亡き後を親あるうちに考えるための研修会の開催
 - ③ 本人向け
 - ・本人活動『つなごう会』の実施と世代別、全世代向けの本人活動の検討
 - ④ 会員のための福利厚生としての育成会の保険の情報提供（継続）
- (2) 家族や本人を支えるための活動の充実（継続）
 - ・会員対応を迅速に行うためのネットワークの整備
 - ・育成会活動の協力者となる人材の発掘
 - ・行政、教育機関との信頼強化、要望実現に向けた取り組み（継続）

3. 育成会活動の理解拡大・情報発信（継続）

- ・知的障がいを知ってもらうための疑似体験ワークショップの開催
- ・全国育成会機関誌「手つなぐ」の会員への購読推進と活用の取り組み
- ・市育成会広報紙「くまもと手をつなぐ」の発刊（3回）、各種情報の提供
- ・ホームページや SNS を活用した情報発信の充実

4. 利用者を支える事業所職員を支える

- ・職員主体の職員全体研修会の充実（継続）
- ・法人内外の事業所間での職員の体験人事交流等の実施
- ・人事異動の実施